

「平成 28 年度オリンピック・パラリンピック教育推進校」 事業実施報告書

【学校名】京都府立 中丹 支援学校【全校児童・生徒数】135名【テーマ】 Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ V

- | | |
|-----|--------------------------------|
| I | スポーツへの誘い 自己肯定感の醸成 |
| II | 障害者や高齢者への理解 共生社会の形成 |
| III | スポーツへの関心や競技力向上 スポーツボランティアへの参画 |
| IV | オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信 |
| V | 国際理解教育の推進 |

【実践研究タイトル】

ボッチャに挑み、スポーツする喜びと感動を広げよう。

【実践学年、部、講座等（学年別・男女別人数）】

小学部：1 年男子 1 名女子 4 名、2 年男子 1 名女子 4 名、3 年男子 4 名女子 4 名、
4 年男子 5 名女子 4 名、5 年男子 5 名女子 3 名、6 年男子 6 名女子 2 名

中学部：1 年男子 5 名女子 5 名、2 年男子 5 名女子 3 名、3 年男子 10 名女子 4 名

高等部：1 年男子 11 名女子 9 名、2 年男子 15 名女子 7 名、3 年男子 10 名女子 8 名

【目的・ねらい】

オリンピック・パラリンピックの価値	友情（○）	卓越（ ）	尊重（○）
	勇気（○）	決断力（○）	
	平等（ ）	鼓舞（○）	

パラリンピック正式種目であるボッチャの用具を購入して活用することで、児童生徒がスポーツに関わりを持とうとする気運を高めるとともに、自己肯定感のさらなる向上につなげる。

【種類】

- ・各教科（体育）
- ・道徳
- ・外国語活動
- ・総合的な学習の時間
- ・特別活動
- ・部活動（ ）
- ・その他（生活単元学習、PTA、教職員研修）

【実践内容等】

（実践内容）

- 1 外部講師を招き、校内で教職員のためのボッチャ研修を実施した。ボッチャ競技のルールを学ぶとともに、実際にゲームを体験することでボッチャの面白さを知った。



2 PTA親子レクリエーションでボッチャに取り組んだ。親子が生き生きとプレイして熱戦を繰り広げた。



3 高等部の生活単元学習の時間にボッチャに取り組んだ。どの生徒も的に向かって真剣にボールを投げ、見事にボールが留まった時は、喜びの声を上げていた。



（実践上の工夫点、留意点等）

障害のある児童生徒が取り組みやすいように点数表示つきの8角的を購入して活用している。点数表示つきのため合計点数が児童生徒にも数えやすく、算数・数学の学習にもつながっている。次第にフェイドアウトして、正式なボッチャ競技のルールに近づけることも今後検討して行く。

（成果）

ボッチャを活用したどの授業においても、全ての児童生徒が主体的かつ意欲的に取り組んでいることが何よりの成果である。ねらいとしていた児童生徒がスポーツに関わりを持とうとする気運は高まり、自己肯定感の向上にもつながっていると確信している。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題等】

今年度、各学部の体育、生活単元学習、遊びの指導、自立活動、特別活動（チャレンジタイム）、ホームルームの時間等で積極的にボッチャに取り組んだ。また来年度は、小学部は小学校や特別養護老人ホームの利用者の皆さん、中学部は中学校、高等部は高等学校との交流及び共同学習でもボッチャに取り組みたい。さらに、地域の皆さんとボッチャをとおして、つながりを強められたらとも考えている。